續千載和歌集 上

特別
へ4
8099
15(1)

N4
8099
15
(1)

<2001-033>

續千載和歌集卷第一

春歌上

前中納言定家

弘長元年後滅院二百首哥奉行時

立春　　前大納言為家

あさ日さす　　　
　　　　　　　　
みさ山もと　　　

常盤井入道前太政大臣

あさ霞　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

土御門院御製

春の色を　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

順徳院御製

あさ霞　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為家

春立ちて　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為氏

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為世

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為藤

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為定

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為重

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為尹

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為広

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為条

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為遠

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為久

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為定

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為重

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為尹

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為広

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為条

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為遠

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

前大納言為久

春立つと　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　
　　　　　　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
寛治二年後滝滅院一百首
弘安元年亀山院一百首
入道前太政大臣
院法橋
伏見院法橋

春大納言局家
二月餘寒
後二条院法橋
又
寛治二年
後滝滅院法橋
春大納言局家
仁治元年
下
寛元元年

常盤井入道前太政大臣

雪中若菜と云ふ事を

神の上にも空も雪をそふる

松風百首の中にて

入道前太政大臣

春元百首の中にて

太政大臣

若菜摘

諫徳公家の屏風に春日野に若菜摘

大中臣能宣朝臣

清原深養父

相模

順徳院御製

洞院権政家百首 寄水露

藤原信實朝臣

たち枝の屋上氏松のあさ露

芸亭たちあかしもとかつ

常盤井入道前太政大臣

春ふかき露ときえてそ時雨ける

前伊予守通性

芸亭百首歌たてまつりける時 寄水露

あさ露のおくれ先たつ

前大納言為氏

百首うたてまつりける時

寄水露

宝治二年百首歌たてまつりける時

前大納言為世

長栄すと芸亭ひろく松植ゑし

柳を

藤原信實朝臣

芸亭まつ人こそ露のそでぬらし

前中納言定家

あさみどり糸よりかけて白露を

雲中梅とや人のぬくらん

今上御製

[illegible]
百首うたよませ給ひけるに

寄草不知恋

藤原為定朝臣

春の野のかきねをみれば
忍ぶ草
しのぶの中も
いつもとふその梅の花

二条院讃岐

春風もこころありてや
吹匂ふ
こぞの古枝を
梅の花

久我大臣女

夜泊梅薫風

浪漂
こぞの古枝を
梅の花

後滋蔵院法印宴

建長二年詩歌合ありける時 依二春望一

前大納言為家

雖残冬
春百首うたよませ給ひける時

梅の香やまだ
梅の花

前中納言定家

夏百首うたよませ給ひける時

ほのぼのと
ほのぼのとありあけの
ほのぼのとありあけの月

入道二品親王道助

秋百首うたよませ給ひける時

月前雁

大納言隆博

[illegible]
弘長三年四月廿日
百首哥
前大納言良教
津守国助
前大納言為世
永福門院
[illegible]
[illegible]
[illegible]

贈従三位局子
前関白太政大臣
源朝臣氏訓点
前大納言信為家

伏見院法樂

[illegible]

[illegible]

山階入道左大臣

權中納言公雄ユウ

[illegible]

法印定爲

[illegible]

左大臣

山[illegible]

[illegible]

前參議雅有

[illegible]

[illegible]

宣秋門院丹後

[illegible]

春歌下

寶治百首歌奉

公ほうれうとありける時

雪園寺入道前右大臣家三首歌

花

ゆきてこととはむそてにちりつもる

藤原清輔朝臣

花ゆゑにおもひたえせぬ春の日を

源重之女

ながめくらしてけふもくれぬる

後法性寺入道前関白家

花

ちりぬとてかへりこしまにたつ浪の

順徳院御製

なほうらめしきはるのかぜかな

家に三首歌合しけるに花下月

ちりつもるそてのうへにあらねとも

後法性寺入道前関白家

花ゆゑにおもひたえせぬ春の日を

順徳院御製

ながめくらしてけふもくれぬる

ちりぬとてかへりこしまにたつ浪の

なほうらめしきはるのかぜかな

鎌倉右大臣

みよし野の山と今宮むら山と

山花と言ふことを
　　雅忠　天門院
荒野には雪と降りて咲きながら雲
　　前大納言為氏
かも山ぢと春の梢をそれぞとも見よ
　　六条内大臣
百首のうち時
志賀の山越えにかかりて山ぢの梅を
　　正三位為實
おほそらの梅かにかほる春風に
　　雅忠
志賀の山越えにかかりて山ぢの梅を
　　万秋門院
百首のうち時
志賀の山越えにかかりて山ぢの梅を
　　権大納言経継

志賀の山越えにかかりて山ぢの梅を
　　雅忠
みやこ出でて春の山ぢの雪晴れ
　　平貞時朝臣
百首のうち時
かすみたつ春の山ぢの雪晴れ
　　前大納言俊光
百首のうち時
花乱る春の山ぢの雪晴れ
　　内大臣
かげきやだに春の山ぢの雪晴れ
　　嘉元百首のうち花
　　入道左大臣

百官ヲ率テ時
服ヲ改メ其ノ宮ニ就テ
我ノ式中ニ
次ニ東宮ヲ奉ジ
慶雲三年三月
南殿ノ儀ヲ以テ
行ナヒ
第二ノ雲井ノ儀ヲ
百官ヲ率テ時
服ヲ改メ其ノ宮ニ就テ
我ノ式中ニ
次ニ東宮ヲ奉ジ
慶雲三年三月
南殿ノ儀ヲ以テ
行ナヒ
第二ノ雲井ノ儀ヲ

二条准親王覚助
津守国助
左大臣
左近大将冬教

前関白太政大臣
佐伯宿禰
今上ヲ奉ジ
中ノ儀
九十首歌ヲ奉ル事

権中納言藤
坂上

後京極院内侍
入道二品親王性助

題しらず　　源兼氏朝臣

春ごとにたのむるかひもなきものを
天徳三年内裏の合せ梅

年ごとにいきのわかみの梅なれや　中務
ふればかなしきものとしりつつ
堀河院御時中宮の
うつろふをみてよめる　　源俊頼朝臣
ちるをみてそのこすゑをしるかなれ
梅の心を　　平宣時朝臣

梅ちるをいとふ山ぢの春風は
花をみてこそ人もうらめ
花百首歌たてまつりしとき　　前大納言為家
花をみてうつろふ山をうき世のみと
つねよりもまち遠にこそ春を待ちしき　　安嘉門院四条
花の中に
うき世の風もたち添はでみ吉野の
遠嶺に花を残すしるしは　　藤原雅経朝臣
白河の花見にまかりてよめる　　前大僧正慈円

たちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりるれろわゐゑをん

春日社三十首 中納言家持

春きぬと人はいへどもうの花の
かきねに雪のふらぬ日ぞなき

春日社三十首 大納言経信

春雨のふるは涙かうの花の
にほふあたりはうちしめりつつ

春日社三十首 前大僧正慈円

うの花のにほふ垣根に時鳥
なくや五月のあけぼのの空

春日社三十首 権大納言長家

時鳥なくや五月のあけぼのの
空にうの花のにほふ垣根に

白河院御製

ほととぎすなくやさつきのあけぼのに
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 左京大夫顕輔

ほととぎすなくや五月のあけぼのに
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 参議雅経

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 前大僧正慈円

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 中納言家持

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 大納言経信

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 前大僧正慈円

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 権大納言長家

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

白河院御製

ほととぎすなくや五月のあけぼのの
うの花月夜ありあけの空

春日社三十首 左京大夫顕輔

ほととぎすなくや五月のあけぼのの

前大納言為氏

寛治八年八月高陽院行合ノ橋

寄風恋

権中納言通俊

花山院法橋製

大宰権帥為定

今上法橋製

前摂政左大臣

仁和三年歌合ニ落花

前中納言定家

加こいのり千ち世よ

春風の花の衣ころもは袖そでふれて梅うめに匂にほひを残のこしてぞ行ゆく春はるの暮くれ

天徳四年内裏歌合

櫻

中納言朝忠

わすれても風かぜに任まかせじ櫻花ちりかひくもる春はるの心こころを

延喜御時歌

貫之

ちる花はうき世よの外ほかもおもはぬに何いとて身みのうくも春はるを恨うらむる

承暦二年後白河院御時百首歌

春歌

春風の花の衣ころもはたれぬべし梅うめさへ匂にほふ袖そでの上うへかな

春歌

春風の花を散ちらすと見みる夢ゆめのさめても胸むねのさわぐ頃ころかな

春歌

津守国助

梅花ちりてしも猶なほ山里やまざとは惜おしまれぬ

九条左大臣

ちりぬるのちの名なをや思おもふべき

百首歌奉りし時

入道前太政大臣

雨後花

雨はれて白妙しろたへの雲くもを残のこしつつ花はなの色いろ

春風の花の衣ころもはたれぬべし梅うめさへ匂にほふ袖そでの上うへかな

中務卿恒明親王

ならの京より風をのこしてうつし
侍ける

後法性寺入道前白家会に花下月

花もまた月をこころにうつしてや
ながめむ春の夜半をしるらん

後恵法師

花とこそ風もうつりもちりぬめり
誰ゆゑ人の春をしむらん

後教長卿

春風の吹きふく枝をうらみつつ
ちりぬる花の行方をぞ問ふ

大納言経信

山のはに花の残りを見かけてそ
春をしるべき雲のたえまに

経三位氏之

もろ人の浪を分けてや吹きつらん
雪園寺の花のちりぬる

雪園寺入道前太政大臣

花ゆゑに風を恨みてかへりぬる
人の心ぞ浪よりもうき

西園寺入道前太政大臣

花ゆゑに人こそ風を恨めとも
あすさへ見ぬ人のためかは

実氏公

花ゆゑに風を恨みてかへりぬる
人の心ぞ浪よりもうき

雪園寺入道前太政大臣

花ゆゑに人こそ風を恨めとも
あすさへ見ぬ人のためかは

源忠康朝臣

花ゆゑに風を恨みてかへりぬる
人の心ぞ浪よりもうき

源邦長朝臣

平貞時朝臣

平秋吋

藤原兼宗

前大僧正実超

津守國冬

佐見院法橋

入道前右近大将

こそそもみそかひとりさまでもちりうき廿
宿百首のうちにてまつり申うた

寄雨述懐

後京極摂政太政大臣

ふるまてこそ言ふらめ山里の
軒ちかき
う野山のの雫とや人のまつ
前大納言為家卿

暦仁二年三月内裏千首のうちに

かきまたなくに吹あらし
兼暦二年三月内裏千首

後二位家隆

月夜門院へ
月夜門院

常磐井入道前太政大臣

山里のふるき軒ばの雫とや
永仁二年三月内裏千首のうち山路

藤原為道朝臣

ちまたにのこる宿もつけなれ
寄風述懐

伏見院御製

ふきあらふ木の葉の後の
藻壁門院少将

西園寺入道前太政大臣

大江千里

今上御製

諫徳云家の千合

前大納言為世

二条親王尭助

平時村朝臣

後深草院少将内侍

山吹の花ざかりに
九重百首奉りける時

後鳥羽院御製

ゆく春をしたふ山吹の花かげや井手をわたりの
藤堤にとまるらん

前大納言為氏

花ゆゑにすぐる月日をうらめしや池の水底
影もあせ

右近大将房実

いく春をかさねきぬらん山吹の花の盛りを
藤堤にとまるらん

三条入道内大臣

二条院讃岐

おなじ風吹くとや花もおもふらん
海ぢへだてる家ぢなれども

隆信朝臣

ひと声をたのめしほどの郭公
天徳三年内裏歌合

伊勢

もろともにあはれと思へ山桜
花よりほかに知る人もなし

中納言朝忠

ちりぬとて帰る道とや思ふらん
花の陰をば宿と頼まぬ

平兼盛

[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏歌

寛治百首の中に

永縁内大臣

きみこんとたのめしよひのともしびを
月一日ともに待ちあかすかな

和泉式部

きみこんとたのめてきえしともしびの
夜のこころを照らしつるかな

赤染衛門

ゆふぐれをたのめてきえしともしびの
夜のこころを照らしつるかな

永久四年百首歌奉りし時

右京大夫顕輔

朝日山ふもとの里のうの花を
更衣番の人の
折まがふ夕月夜のほととぎす
弘安百首の中に

二条院讃岐

ほととぎす鳴くや五月のまち出でて
いくかの里のうの花の雪

式乳門院内侍

ほととぎす鳴くや五月のまち出でて
いくかの里のうの花の雪

左京大夫道雅

ほととぎす鳴くや五月のまち出でて
いくかの里のうの花の雪

五條三位入道

ほととぎす鳴くや五月のまち出でて
いくかの里のうの花の雪

左京大夫顕輔

ほととぎす鳴くや五月のまち出でて
いくかの里のうの花の雪

前大納言公任
後冷泉院御時
閑白家新大将
前右大臣
前参議雅孝
前閑白太政大臣
お大池言卿重
皇后宮

今出河院近未

伏見院御製

三条入道左大臣

平時元

藤原兼宗

前中納言季雄

権大納言通季

前大納言俊定

伏見院御製

藤原基俊

安法法師

寂蓮法師

源通親

藤原為家朝臣

後鳥羽院御製

春日社百首の中に

藤原為定朝臣

平宣時朝臣

法下長舜

津守国助女

二条法親王覚助

法皇法華経

法下定為

永禄三年 祐子内親王家合

弁内侍

西紀法印

京極入道前白太政大臣

大宰大貳高遠

兼暦二年内裏後番の合に対句を作り
侍中納言通俊
おなじ心を
後徳大寺左大臣
今もまた君が千代をぞ祈るかな
上西門院兵衛
夏の夜に
前参議雅有
おなじ心を
祝部成仲
暁郭公
前大僧正良信
伏見院新宰相
永福門院
郭公なほ待ち出でむ
正長二年春山院十首歌合
山階入道左大臣

まりをよめる　権中納言匡衡

百首うた召ける中に

皇太后宮大夫俊成

かつてより昔をしのぶ袖の露いかなる風にうたかたの消

前権僧正慈円

神垣はしるしの杉もなきものを思ひ入るさの深き夕暮

基俊

平維良

風かよふ寝覚の袖の花の香に夢もにほひの枕そひける

権大納言宣房

権中納言匡房

年百首うたてまつりける時

後鳥羽院御製

あすもこむ野もせの小笹しのの露に

前元百首うた歌たてまつりける時

贈従三位為子

ながめわびぬる秋の夕暮

久安百首うたてまつりける時

皇太后宮大夫俊成

ながめこし袖の時雨もかきくらし

前元百首うたてまつりける時

時その六月の毎
五月毎
[illegible]
[illegible]
[illegible]

高川山乃浪と
たゝ
前大僧正道昭
百首哥たてまつる時
権中納言藤
前中納言定家
皇太后宮大夫俊成女

若葉百首歌たてまつる時

大江貞重

前大納言為氏

後鳥羽院御製

中原師郷朝臣

前内大臣 通

入道右近衛大将 道家

前大納言為世

順徳院御製

躬恒

建保五年宮内卿申云寛暁

参議雅経

注皇太后宮大夫俊成女

院御製

亀山院御製

[illegible]

[illegible]

山本入道太政大臣女

[illegible]

藤原房前臣

[illegible]

院御製

[illegible]

前大納言俊定

[illegible]

贈従三位為子

[illegible]

前大納言為氏

[illegible]

津守國冬

[illegible]

前大納言為家

[illegible]
友方中に
[illegible]
寛和二年内裏千合
[illegible]
藤原惟成
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

祝詞成文

中臣祐賢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大僧正道順
参議右大弁宰相中将公実
権大納言藤原朝臣実行
権中納言藤原朝臣宗忠
権中納言藤原朝臣実能
権中納言藤原朝臣公教
権中納言藤原朝臣伊通
権中納言藤原朝臣家成
参議左大弁藤原朝臣俊経
参議右大弁藤原朝臣光頼
参議左中将藤原朝臣実定
参議右中将藤原朝臣公通
参議左中将藤原朝臣実教
参議右中将藤原朝臣公能
参議左中将藤原朝臣実守
参議右中将藤原朝臣実長
参議左中将藤原朝臣実房
参議右中将藤原朝臣公保
参議左中将藤原朝臣実明
参議右中将藤原朝臣公行
参議左中将藤原朝臣実綱
参議右中将藤原朝臣公親
参議左中将藤原朝臣実清
参議右中将藤原朝臣公衡
参議左中将藤原朝臣実継
参議右中将藤原朝臣公宗
参議左中将藤原朝臣実雄
参議右中将藤原朝臣公敦
参議左中将藤原朝臣実世
参議右中将藤原朝臣公雅
参議左中将藤原朝臣実仲
参議右中将藤原朝臣公定
参議左中将藤原朝臣実尚
参議右中将藤原朝臣公泰
参議左中将藤原朝臣実治
参議右中将藤原朝臣公治
参議左中将藤原朝臣実冬
参議右中将藤原朝臣公冬
参議左中将藤原朝臣実興
参議右中将藤原朝臣公興

百首歌たてまつりける時

入道前太政大臣

ながめつる秋の夕の空の雲の
はてをしらでも
中務卿宗尊親王

空をゆく雲のはてしもおもほえず
今日見渡せる
今日見渡せる

雁

惟明親王

かりがねの声のかぎりは秋風の
吹きとめたるしるしなりけり

百首歌たてまつりける時

前中納言為相

天河あすの夜ごろの一雨に
秋ふかしとや
中納言家持

今よりの秋をしるしと天河
あすの夜ごろの雨やすぐさん

山色赤人

ひさにふる雨のしたより浪ぬれて
山もあかひと
亭子院御時七月七日七首歌たてまつりける時

秋山院信有朝臣

秋山のもみぢをわたる風のうへに
雲のかよひぢ
雲のかよひぢ

前大納言為家

家の音着て合て九郎判官
源京極政お三政大臣
弟大納言有房
八百お義の家をきこえ
弘安百首に
題不知
入道前大政大臣
源氏朝臣
お中納言定房
後嶋羽院御製

[illegible]
正治百首のことをもて秋の歌の中に
いかゞありけん
今日暮ぬ
こゝろをあはのあはれをそふる風
述懐百首のうちに秋
皇太后宮大夫俊成
寛和元年内裏にて小さき虫の声〻
前中納言定家
二条院讃岐
今日暮ぬ
こゝろをあはのあはれをそふる風
述懐百首のうちに秋
皇太后宮大夫俊成
寛和元年内裏にて小さき虫の声〻

秋の歌とてよめる
権中納言公雄
おのれのみ秋の夜ながと思ひしを
ねやの上にもきゝつる哉
法眼慶範
吟ずれば秋の夜ながらおのれのみ
ねやの上にもきゝつる哉
権中納言公雄
おのれのみ秋の夜ながと思ひしを
ねやの上にもきゝつる哉
法眼慶範
吟ずれば秋の夜ながらおのれのみ
弘安百首歌とてよめるうち
入道前太政大臣
夕日さす野のおもてにおく露を
弘安八年八月十五夜和歌所にて秋風を
前大納言為氏

秋千の中に

前大納言雅長女

二条院讃岐

風ふけばおちくる花のしたもみぢ

誰ゆゑ秋の色をとふらん

前中納言定資

ひとりぬる山路の秋の夜の月

たれ待ちえてか松風の声

従二位家隆

ひさかたの雲のかよひ路ふきとぢよ

乙女の姿しばしとどめむ

権中納言定家

物おもへばさこそ袖の露けけれ

わが涙さへ時雨ふるらし

平二時

秋の夜はつらきわが身の上ながら

なほうらめしき人の心か

建暦二年内裏詩合に

太政大臣

みな人の分けゆく袖の下露に

なれてや月の影もやどらん

従二位家隆

秋ふかき隣は何を里人の

砧の音も聞きてやすらん

春雨言ふそまつ宮こき

ひとそとも花をもよそに春雨の
　雫景殿の為もひつけり

志賀をそ大伴の花すきぬ波こす春の神ふみ分れ
　ぬ寸

津守国道

花すきぬ波こす春の神ふみ分れ

在二秋蘭一(題)

花そ風なふ当方仮枕歌(とり)夜ふかれうそてん

前僧正道性

天慶八年沽屏風(題)

源公忠朝臣

秋の野をうつくしけるむしの
ゆふまてとたにふかぬ風かな

うちやうふくてもきの葉をかへす名
なをせきあへぬ秋風かな

かきつけそうら
　ふ人へ寸

志賀の花の白をそ
　ふ

為家卿の白をそ
　ふ

選子内親王

秋ふかき野の風をそふのきけ
　ふ

前左兵衛督教定

我屋の庭に花橘を植ゑて
ほととぎすの来鳴くを待ちて
よめる
　　大伴家持
ほととぎす来鳴く五月の花橘を
　　遠永元年和二十五首の内
　　注三位氏久
ほととぎす来鳴くごとに見まくほり
　　注二位家隆
ほととぎす来鳴く声の恋しきに
　　万秋門院
ほととぎす来鳴く声を聞くなべに
　　藤原為定朝臣
ほととぎす来鳴く声を聞くなべに
　　注皇后宮肆
ほととぎす来鳴く声を聞くなべに
　　大納言旅人
ほととぎす来鳴く声を聞くなべに
　　僧正玄意
ほととぎす来鳴く声を聞くなべに

源氏大事 左大臣

永承六年 秋の紅葉(もみぢ)の賀

三生忠冬

相模

小弁

前兵衛佐 押小路

左大臣

忠房親王

治三位為隆

治部卿

三位為家

侍従宣阿

前中納言経隆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道前太政大臣

お大将言房世

二条法親王尭助

行僧正権守

園光院入道前太政大臣

山庵と云ふ心を

法皇法號

平宗棟

前中納言季雄

薬師門院女房

ちふくり廉すく狂二の小萩そ末のそ
初鳥を　　惠山院沸書
萩乃上共露之ゟりそ雲の如そ
侍二位幼家
鳥生活卿
鳥之そ秋の下紙の神ゟ
平宗宣朝臣
山之のさゝき初けく声
屋風示
船恒
ゟ
ゟ

人麿
行ゟ会井へみちゟ絶ゟ
百首番哥合
物やり会のそゝ
百首哥ゟり付
旅ゟ
藤中納言為
後鳥羽院御製
鳥羽殿ゟ
同元院入道前関白左大臣
藤原宗秀
鳥之ゟ
大江頼重

手ら奉ぶきりの法名を神と奉るの
外ハ今ハ
分内之御表之義ハ
百日ニ而ハ
日々ハ
弘安百箇条ニ
たゞ
ら
条ニ
永福門院
御
藤原隆祐朝臣
権中納言公雄
光俊朝臣
藤原宣方朝臣
前大納言為家
入道右大臣

伏見院位記
従二位
正二位
民部卿資教
前兵部大輔家嗣
信実朝臣
右大弁

秋哥下

月不(ヤヽ)擇處と云ことを

大納言經信

なかめこそわたる秋の月ならめ
いつくもおなし雲井なりけり

鎰舍右大臣

月見つゝ夜をあかしつるかひもなし
たゞ一方にそまつ思ひ出

入道前大政大臣

ひとりのみながむるからに秋の夜の
月もうらめしかほにぞ見ゆる

民部卿實教

物おもふ人のたもとやあきの夜の
月のみ袖にやどりそめけん

前大僧正實業(ヤヽ)

とりもあへすみるへき秋の月なれは
たゝ一方にそまつ思ひ出

左京大夫顯輔

秋ことにみねの木葉のうつろへは
百首のうたもかすかきつくし

佐京皇后宮

秋の世の露をもとめてやとる月
前大納言忠世

津嶋にて月をみる事ありけるに

おもひつゝみてかひなきものなれは

彩不知

民部卿資宣女

[illegible]

[illegible]

建保三年後鳥羽院百首歌中

後久我内大臣

[illegible]

[illegible]

百首歌中

参議雅經

[illegible]

殿領門院大納

藤原定家朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月のころ中
皇太后宮大夫俊成女
ありま山の花盛りに
藤原光俊朝臣
本歌取りせさしめ給ひて
権中納言公雄
家集たてまつりけるに
従三位行権中納言藤原朝臣
建長元年四月十三日内裏歌合
前大納言為家
墨染に咲くとも見えず吉野山
春の名残の花の白雪
後二条院御時
正二位行権大納言源朝臣
月ごろの心ざしうけ給はりて
殿御門院に
久しく百首奉らざりけるに
前中納言定家
三十年の春もうつりぬ月ごろ
平懐良
大井のこりも杜の忘れ水

前関白太政大臣
従二位行家公
正上月
丁丑の日右の杜(ヨリ)に
寛元二年七月
こと終りぬる
位記の杜(ヨリ)もて
建治三年九月十三夜の
今日まで新
前大納言為氏
前右兵衛督為教
西園寺入道前太政大臣
宰相中将
教定卿
平泰時朝臣
権中納言為藤
後二条院御製
百首の中に月
百首の中に月
中務卿宗尊親王
道助法親王家の

前中納言宣家
百首うた
おくてなるものとはなけれ
ひとりのみのかりの枕も
左京家初会
おくかぜの
ふきにけりとも
前大納言冬教
山階入道左大臣家十首うた
津守国助
観意法師
前大納言為家
家平百首うち
入道二品親王道助
兼顕法親王

春宮権大夫有忠

按察大納言公明卿

三位中将公仲朝臣

三位中将公敦

前大僧正仁澄

鏡舎右大臣

津守國助

永仁二年八月十首歌奉りける時

海上月

為通朝臣

大納言隆博

大教法門之政大臣

前大納言俊光

素暹法師

恵慶法師

藤原實方朝臣

後鳥羽院御製

藤原景綱

兼

大蔵卿隆博

源順

建治三年九月十三日

前大納言為家

従二位家隆

神祇伯顕仲

前大納言為家

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大納言為氏
従二位行宣
正二位為世
権大納言為定
従二位為藤
従二位為明
従二位為村
従二位為相
従二位為冬
従二位為秀
従二位為遠
従二位為忠
従二位為基
従二位為重
従二位為藤
従二位為明
従二位為村
従二位為相
従二位為冬
従二位為秀
従二位為遠
従二位為忠
従二位為基
従二位為重

権大納言
正二位行宣子
従二位為藤の孫乃至
百首歌たてまつりける時
前僧正雲雅
従二位為明卿孫
大蔵卿隆博
従二位為村卿孫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正和三年九月晦日十首寺に暁惜月

従三位為理

そのなかの時雨をそれと

詠ずる

従二条院内裏

百首の中に

前大納言為世

久安百首の

上西門院兵衛

秋

前中納言定家

冬哥

時雨の冬と云ふ事を

法皇御製

山時雨

院御製

後二條家隆

後一条入道前関白左大臣

中務卿宗尊親王

入道二品親王性助

百首歌たてまつりし時

権中納言為方

冬の哥中に

権中納言親房

春宮大夫公實

前大僧正実超

法印幸深

前大納言俊光

参議云明

五百七

百首歌奉りし時　権中納言公雄
かく娘子としてこの頃の歌ども書きあつめて奉れとありければ
寛治百首歌奉りし時　従二位行宗
祝部なりける人の家の集めの歌ども書きあつめたるを
百首歌奉りし時　前大納言後光
春立つ日よみ侍りける　権中納言公房
秋雨の心を人々詠み侍りけるに　十首（九十首）歌奉りし時
困庭寒草　権中納言長房
庭の面あれ果てそこともなく冬枯れたるを
山階入道左大臣家十首歌奉りし寒草　津守国助
家もなき庭の草葉の冬ごもりまばらに残る虫の声々
冬の雨中に　平政長
かきくらし降りみ降らずみ定めなき神無月の雨の風
百首歌奉りし時　右近大将通季
吹きあらし木の葉残らぬ冬の山里は月をぞ宿の
秋の夜の月を詠みて奉りし　従三位行宗

百首歌たてまつりし時

長暦(和ノ)元年四月廿三日 大炊御門右大臣

和泉式部

藤原敦successor朝臣

中務卿恒明親王

平付元

藤原重忠

入道二条親王仕助

後二条院内裏

入道大宰大弐

前大納言為家

前大納言為氏

元長元年内裏三首平に暁雪
雪乃うの高乃月を影乃てるうの春乃到き共遥
前大納言
為家卿
都尓も雪乃ふりつもるらん
院御製
春乃来と人乃告ぬ尓
澄覚法親王
花さそふ嵐乃庭乃雪ならて
津守国冬
降て山と里乃へたてなき雪乃ふり
前大僧正道昭
冬乃うの雪尓こもりゐて
平時有
春乃来と人乃告ぬ尓
冬乃うの雪尓こもりゐて
前大僧正道昭
風ふけは峯乃白雲かゝるうの
冬乃高中尓
法印定為
ふもとの寺も白雪乃
後二条院御製
ふりつもるらん
あしひきの山乃かけ乃雪乃
祐子内親王家紀伊
ふりくらしつゝ冬乃暮ぬる

中納言家持
皇太后宮大夫後藤
従四位下平群朝臣
清麻呂
従五位下紀朝臣
鯖麻呂
従五位下大伴宿禰
家持
従五位下大伴宿禰
書持
従五位下藤原朝臣
八束
従五位下大伴宿禰
池主
従五位下大伴宿禰
三依
従五位下大伴宿禰
村上
従五位下大伴宿禰
稲公
従五位下大伴宿禰
宿奈麻呂
従五位下大伴宿禰
千室
従五位下大伴宿禰
古慈斐
従五位下大伴宿禰
牛養
従五位下大伴宿禰
道足
従五位下大伴宿禰
犬養
従五位下大伴宿禰
真麻呂
従五位下大伴宿禰
祖人
従五位下大伴宿禰
駿河麻呂
従五位下大伴宿禰
百代
従五位下大伴宿禰
手拍
従五位下大伴宿禰
清縄
従五位下大伴宿禰
東人
従五位下大伴宿禰
御依
従五位下大伴宿禰
氷上
従五位下大伴宿禰
黒麻呂
従五位下大伴宿禰
継人
従五位下大伴宿禰
家持
従五位下大伴宿禰
書持
従五位下藤原朝臣
八束
従五位下藤原朝臣
仲麻呂
従五位下藤原朝臣
永手
従五位下藤原朝臣
真楯
従五位下藤原朝臣
清河
従五位下藤原朝臣
八束
従五位下藤原朝臣
久須麻呂
従五位下藤原朝臣
御楯
従五位下藤原朝臣
刷雄
従五位下藤原朝臣
田麻呂
従五位下藤原朝臣
縄麻呂
従五位下藤原朝臣
浜成
従五位下藤原朝臣
乙縄
従五位下藤原朝臣
雄田麻呂
従五位下藤原朝臣
魚名
従五位下藤原朝臣
末茂
従五位下藤原朝臣
楓麻呂
従五位下藤原朝臣
真先
従五位下藤原朝臣
真夏
従五位下藤原朝臣
真鷲
従五位下藤原朝臣
真楯
従五位下藤原朝臣
清河
従五位下藤原朝臣
八束
従五位下藤原朝臣
久須麻呂
従五位下藤原朝臣
御楯
従五位下藤原朝臣
刷雄
従五位下藤原朝臣
田麻呂
従五位下藤原朝臣
縄麻呂
従五位下藤原朝臣
浜成
従五位下藤原朝臣
乙縄
従五位下藤原朝臣
雄田麻呂
従五位下藤原朝臣
魚名
従五位下藤原朝臣
末茂
従五位下藤原朝臣
楓麻呂
従五位下藤原朝臣
真先
従五位下藤原朝臣
真夏
従五位下藤原朝臣
真鷲

藤原頼盛

相模

大江政国

津守国助

前大納言為氏

藤原宗行

津守国冬

皇后宮

二月廿親王覚助

藤原信雅朝臣

慈道法親王

前兵部大輔大江

暁更

積雪

山階道左大臣家十首

源兵部卿

三善遠衡朝臣

春日詣

春日詣

春日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

續千載和歌集卷第七

雜躰

題審

隆信朝臣

隆信朝臣

前大納言為氏

大納言

入道前大政大臣

津守国助

後頼形

山本入道大政大臣

祐子内親王家紀伊

大貳三位

法三位光政

百官令和付

入道前太政大臣

大僧正行尊

大貳三位

信實朝臣

弁乳母

前大納言為世

正三位知家

康資王母

羈旅哥

みちのくにまかりける人に餞し侍りける

權中納言敦忠

ふるさとをいでしときゝてあふさかの
せきもとめまうきこゝちこそすれ

小野小町

見しひとをそのよとおもはましかば
こよひのあふこいかばかりうれしからまし

壬生忠見

ゆめとこそそのよはいはめおもひかね
こよひのあふこまたはかなくて

貫之

物へまかりける人の帰りまうできたりけるに

恵慶法師

秋の月見てたちかへりこしみちなれど
なほこえまうきあふさかのせき

藤原清正

君なくてたれにかきつけてかへるらん
ものおもふやどのあきのはぎ

中務

天暦九年（九五五）宇佐の使の餞を令奉仕給
宰相中将　藤原高光
源季広下野守に任ずる由を聞きて
私つけん命をおもひわするもうき世なり
別れそまさるさもあらばあれ
別のことを
因幡法師
たのまれぬ命ながらもかくまでも
蓮生法師
信生法師
今ぞわれ
因幡寺に成てくりまうけ
蓮生法師
ありさまこまごまとかきてそへたる
孫ゆく〳〵かへるをうらやみて
前大納言公任
人なみなみの境の歌
馬内侍

土御門院小宰

あさ霧に深くわけこしをの末の
ゆく方も松ふきかへす嶺の風

山階入道左大臣

浦ちかすあまのかり屋のそこ寒み
苫間白波

前関白左大臣家

空さえてかをかの雪の朝ぼらけ
月

平宗宣朝臣

海路

ふる郷の浪路をかけて思ふ哉
あま

大納言為世

平氏村

手ふりみの松のこずえも雪ふけて
百首歌たてまつりし時

権大納言定房

今ぞしる君をいのりの八百よろず
旅の心をよめる

津守国助

波ふかぬ御代のみなとの朝なぎに
ひとつ帆かけて月ぞ出ぬる

大江忠成朝臣女

藤原秀衡寄一

奈大納言通重

後二条院御製

おなじ

平府吟

藤原行朝

惟康親王家右衛門督

兼覚法親王

前右近大将頼朝卿
[illegible]

[illegible]

頼朝卿の家に
[illegible]

[illegible]

前大僧正慈鎮

前右近大将頼朝

権中納言
宰相信法師

[illegible]

[illegible]

藤原重若朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平貞時朝臣

前大納言為氏

源親長朝臣

中務卿宗尊親王

平政村

孔安国之言そのまゝ
そのつゝみもなくそのまゝ
永福門院
松のねにそのまゝ
書そのまゝ
長谷寺
のこゝろ
海そきゝゆきそのまゝ
旅のつゝを
書そのまゝ

従三位宣子
百首歌たてまつりし時
ゆふ
雲
雨
雲
雨
雲
雨

雅宗忠宗

百首歌奉りし時　従二位宣子

土佐門院小饗

遊義門院

源為氏朝臣

藤原清忠朝臣

藤原為定朝臣

藤原雅孝

藤原忠守朝臣

藤原為重朝臣

藤原清忠朝臣

藤原雅孝

藤原為定朝臣

藤原為重朝臣

藤原清忠朝臣

藤原雅孝

藤原忠守

ひさうゆく春の中山すてる
　　　

平氏貞
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右大臣殿

源義行

右大臣殿

前中納言殿

右大臣殿

中納言殿

土御門院御製

家百首中に旅

神祇哥

建長五年住吉社歌合

寄海述懐

後嵯峨院御製

わたの原八十島かけて漕出ぬと人にはつげよあまの釣舟

右幸若舞曲為教

神祇哥

建長五年住吉社歌合

寄海述懐

後嵯峨院御製

わたの原八十島かけて漕出ぬと人にはつげよあまの釣舟

右幸若舞曲為教

山年入道前左近将監

前大納言爲氏

前兵部卿宗良親王家十首歌とて

津守國助

前大納言爲氏

春日社にて

前兵部卿宗良親王

前大納言爲氏

前兵部卿宗良親王春日社にて
別當にて侍りける頃
仙洞にて

前僧正實聖

前參議雅有卿

二首山寺花

元百首

一条内大臣

権大僧都公順

前大僧正禅助

佐貴法橋

前大僧正尊快

二条法親王家丹前ノ按官

前中納言経雅

入道前大政大臣

冬ごもり松の下葉も散りそめて
　　孤雁旨前歌

法二位家隆

寄雪恋

雪ながら山もと暗き夕暮に
　　ほのみし人の跡ぞ恋しき

前大僧正慈円

寄雪恋

思ひきや雪の下にて朽ちもせぬ
　　袖の上にて年を経んとは

権大僧都公順

寄雪恋

雪ふかき山の麓の松風に
　　夜半の寝覚の夢ぞ絶えぬる

法二位家隆

寄雪恋

雪ふかき山の麓の松風に
　　夜半の寝覚の夢ぞ絶えぬる

入道前大政大臣

寄雪恋

雪ふかき山の麓の松風に
　　夜半の寝覚の夢ぞ絶えぬる

法性寺入道前太政大臣

寄雪恋

雪ふかき山の麓の松風に
　　夜半の寝覚の夢ぞ絶えぬる

前大僧正慈円

寄雪恋

雪ふかき山の麓の松風に
　　夜半の寝覚の夢ぞ絶えぬる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
百首歌奉り時
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神祇官の官人ども
伊勢国より奉る所の
民部省宣すらく
其の海べの
勅を
九重
みつの
石清水の
九重の
神祇官
百官
世々
春秋
祭
次
大江貞重
従四位下源兼
前大納言藤原言泉重
従二位行権中納言藤原朝臣実世
前大納言藤原朝臣
参議従三位行左兵衛督藤原朝臣
神楽
次
文治二年
前中納言定家
天仁元年

音高山をもつ
よろづよをたもつ山の松
康治元年近衛院の時大嘗會悠紀方永樂寺
三上山をよめる
前中納言匡房
あふみぢや三上の山のすぎむらも
なほ神垣のしるしなりけり
延慶二年新院の時大嘗會悠紀方永樂寺石ヤ
山をよめる
前大納言公俊卿
ふるのわさ此ためしとや
三上山のすぎむらもなほ

續千載和歌集卷第十
釋教哥
菩提心論曰云漸加至十地滿證無上
法王位
注皇法興
日ぶちて新らかなれと
三摩地現前セ
月ふちて光をそへむ
十住心論の開庫授寶ミツノクラヲヒラキ
ひろき世の中の
真如親王
弘法大師

かくの如き建暦を三年の春の
観音院そこに人幾
叡念の化すあるにも
志賀のかくばのたちを
志空のそれ若空三義を行ずる
秋八月霧ヒ徹
君に捧まつり行そ
仰観察者の心を

権僧正智弁
大僧正明尊
前大僧正実誉
前大僧正覚守禅

君そ
御山自證三菩提
前大僧正
三月の雲井たく
大日尊成就
今朝の
今夜の
よの
鳥羽院

権僧正
大僧正
前大僧正
覚鏡上人

真言院乃表
法皇乃表
布大僧正獲賜
有空不二表
法中道我
法花經序品聖
入道親王尊円
我見檀明佛本光瑞如斯
方便尓漸ニ積功徳
源有長朝臣
法眼親瑜
前中納言定家
近衛院法表

信解品辟如童子幼稚之時
法中宣為
僧都源信
藥草喻品
待賢門院中納言
安樂行品深入禪定見十方佛
皇太后宮大夫俊成

勧教尊の名を
又久のたなそゝ丸心そ
諸行無常是生滅法と唱ふを
前大納言為家
ゆふそれ世尊ゝゝそ
仁王護国品をとゝ
きゝて
前大僧正忠源
不妄語戒をゝ
第八識の名をひりも
草繋法並を
前大僧都巌教
第八識をうそ
唯識論智与真如平ゝの名を
前大僧正良信
心清浄ゝ有情清浄
未得真覚恒處夢中
法印寛尊
同時に覚知一心生死永断と唱ふを

法市顕乞
法性寺入道前関白令刺権の北政所之
乃至一念称仏必得往生之力
前中納言定家
五百弟子品
法市憲實
如来神力品
勧持品
西幻法師
嘱累品
寿量品
従地涌出品
道基法師
薬王菩薩本事品
行律師澄世
妙音品
前中納言定資
普門品
後法性寺入道前関白右大臣家百首歌
陀羅尼品
刑部卿頼輔
薬王菩薩本事品

普門不種々諸悪趣

源為氏朝臣

[illegible]

言語道断心行所滅

[illegible]

[illegible]

前大僧正忠源

性助法親王[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大僧正禅助

[illegible]

前大納言為家卿

[illegible]

[illegible]

従三位氏久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

擣如浄水洗除塵労

観空量等虚空宮殿之

日想観應當專心繫念一處

光明遍照十方世界念佛衆生

佛開予知方便之門

阿弥陀経常作天楽の名を

後頼朝臣

往生論永離身心悩

法中重受法味

権律師心誉

権僧正成賢

法中重覚

奇大僧正道寶

権僧正恒寿

権大僧都澄俊

皇后宮

宰相典侍

瀧天門院

前大僧正親源

前大僧正慈鎮

百首歌めされて井さに

法皇御製

今こそは月見る秋と思ひしか春見ればそれも哀れなりけり

前大僧正良信

おもふ事なくて過ぎにし昔さへ今はあかぬ心地こそすれ

永福門院

なかなかに思ひ入れじと思ふにもなほ哀れなる秋の夕暮

入道前大政大臣
天政大臣を
兼光法親王
前大僧正尋助
法印俊誉
民部卿三位
前大僧正忠源
前大僧正範憲
僧正覚圓
入道二品親王性助

僧正道順

[illegible]

[illegible]

覚鏡上人母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菅原在良朝臣

二月廿五日賜姓

菅原在良朝臣

二月廿五日親王宣旨

基俊

入道二品親王覚性

前大僧正道玄